第53回 新春市長対談

三味線を通じて日本文化の魅力を発信

津市河芸地域出身で、日本を代表する津軽三味線奏者の駒田早代さん。卓越した技術をベースに現代的なアレンジで新しい三味線音楽を創り出し、ワールドワイドにファンを増やす一方で地元に根差した活動を大切にし、伝統文化の継承にも取り組んでいます。今回の市長対談では、三味線を武器にグローバルとローカルを行き来して発信する駒田さんにお話を伺いました。

市長　駒田さんは国内だけでなく海外公演もなさっていて、最近はペルーまで行かれたそうですね。

駒田　日本人ペルー移住125周年記念コンサートのメインステージで演奏しました。後半には現地のメンバーも加わってスペイン語でペルー民謡を歌ったりして、観客の皆さんにスタンディングオベーションで喜んでいただきました。南米の音楽はリズムが難しく、日本の民謡とは全く違います。でも現地の方が弾き始めると独特の手拍子が始まって皆さんの息がピッタリ合う。国によって染み付いたリズムが違うんだと感じ、すごく刺激的でした。

市長　文化の交流ですね。そもそも三味線という日本の古典楽器にはどのようにして出会ったのですか。

駒田　昔、ドリフターズの志村けんさんがかくし芸大会で三味線を弾く姿が母の記憶に強く残っていたらしく、私が小学校に入学した頃に何か習い事がしたいと相談した時に三味線はどうかと勧めてもらったのがきっかけです。

©ZENTA STUDIO
足太鼓を操る独自の演奏スタイル

市長　高木ブーさんのウクレレではなく、志村けんさんの三味線ですか。７歳でこんなに大きな津軽三味線を弾くのは大変だったでしょうね。

駒田　子どもも大人と同じサイズを使うので、重さ３～４kgの楽器を持つだけで必死でした。

市長　そして弾きながら歌うようになり、さらに足で叩く太鼓も。これは独自のコンビネーションですね。

駒田　世界初だと思います。朝陽中学校の吹奏楽部で、リズム感を鍛えたいと思ってドラムを担当していた時、ドラムができるなら三味線を弾きながら歌って足で太鼓もできるんじゃないかと思い、足太鼓というオリジナルの楽器を発案しました。祖父は手先が器用で、私のアイデアを伝えたらイメージ通りに作ってくれたんです。

市長　その後、津高校２年生の時に日本一になられて、東京藝術大学へ。いろんな進路がある中で、三味線でいこうと決めたのはなぜですか。

駒田　受験期に周りが志望大学を目指す中、私も勉強を頑張っていましたが、２年生の夏の三者面談で担任の先生に「日本一にもなった津軽三味線を趣味で終わらせていいのか」と言われた時に「趣味じゃない！」って思ったんです。せっかく大学に行かせてもらえるのだから本当に学びたいことを学びなさいと言われ、じゃあ三味線だと気付かされました。そこから藝大を目指し始めたものの、情報がなくて右も左も分からない。先生方もサポートのしようがない状況でしたが、心強い応援をいただき、他の生徒が数学を勉強している時に私は音楽室で三味線を弾かせていただいたりしていました。

市長　先生方が、個人の能力を引き出そう、伸ばそうとしてくれたんですね。そして藝大に見事合格なさって、どのような学生時代でしたか。

駒田　怒涛（どとう）のようでした。一人暮らしを始めて手一杯の中、月曜と水曜にレッスンがあり、曲の暗譜をしなきゃいけない。長唄という三味線音楽は１曲30分くらいあり、それを暗譜するのが一番きつかったです。家では常に長唄を流しながら生活し、聴きながら寝落ちする、聴きながら登校するという日々。一方で三味線以外に日本舞踊や琴、尺八、篠笛、笙（しょう）なども学ぶことができて、他では経験できないことを勉強させてもらいました。

市長　大学卒業後はプロになり、今は指導者にもなられていますね。

駒田　稽古場は東京、三重、京都の３カ所です。それぞれ月１回、７歳から70代の方まで幅広く習いに来ていただいています。趣味としてやりたい、大会で優勝したい、プロになりたいなど目的はさまざまで、アニメがきっかけで和楽器に触れてみたいと小さい子が習いに来たりもします。それぞれがやりたいことをできるよう、目的に応じた指導をして稽古場の雰囲気を楽しくするようにしています。

市長　ＳＮＳも活用なさって、Instagramのフォロワー数は68万人！さらに投稿動画の中には１カ月で再生回数１千万回を超えたものもあるんですね。一体何がバズったのですか。

駒田　三味線でギターのリフをカバーして弾いてみた動画を投稿したら、海外の方から「和製のギターだ！」「３本の弦でこれだけ表現できるのか！」と驚かれて。レッドホットチリペッパーズという世界的に有名なロックバンドのベースの方ご本人から、「これぞロックだ」というコメントをいただいたことがきっかけで、アメリカのフォロワーが急激に増えました。

市長　海外の方に向けてオンラインレッスンもなさっているそうですね。

駒田　昨年７月から、通訳付きで教えています。日本から楽器を取り寄せ独学でやっていたなど熱意のある方々から多数の応募をいただき、アメリカやドイツ、ジャカルタなど各国から参加するため時差も考慮して３人ずつグループ分けして指導したところ、好評でした。今年も続ける予定です。

市長　一方で、昨年10月には津まつりに出演、11月には一身田町の高田会館でコンサートもされました。いかがですか、ふるさとでの演奏は。

駒田　三味線を始めた７歳の頃から頼まれて高齢者施設での慰問活動を始めたところ、クチコミで広がり多くの施設で演奏させていただきました。その当時からお世話になっている地元の皆さんが公演を見に来てくださり、

ペルー公演（2024年11月）　©駒桜の会

「大きくなったね～」と。今回のコンサートは、皆さんのおかげで藝大で勉強して、また地元に貢献したいと思って帰ってきましたと、私から感謝を伝える機会になったと思います。

市長　今後の音楽活動は。

駒田　民謡を今のポップスに取り入れてアレンジすることに取り組んでいて、オリジナル曲をどんどん作っているところです。昨年９月と10月に１stシングルと１stアルバムを出させていただいたのですが、2025年も、民謡を次世代に残していくため歌い継いでいきたいです。

市長　演奏会という接点の他にも、ＳＮＳを通して、三味線や民謡ってこんなふうにも楽しめるんだということを発信しているのは素敵だと思います。これからの目標はありますか。

駒田　三味線を通じて地元に貢献したい、私がこの道に進む後押しをしてくださった地元の方々に恩返ししたいという気持ちがあって、例えば伊勢木綿のような伝統産業とタッグを組んで何かできないかとか、私なりに日本の伝統文化を残し海外に発信していく役割を担っていけたらと思っています。

市長　邦楽や着物といった日本の文化、そしてふるさと津を大切にしていただきながらのご活躍、大いなるご発展をご期待申し上げます。

伝統を残すため、私なりに貢献したい

津軽三味線アーティスト
駒田 早代さん
KOMADA　SAYO

1999年津市生まれ。７歳から津軽三味線、10歳から民謡を始める。津高校在学中に第９回津軽三味線日本一決定戦Ａ級女性の部で優勝するなど、受賞多数。2022年に東京藝術大学音楽学部邦楽科を卒業。現在はプロ奏者として各地で演奏活動を行い、古典とモダンを融合させた独自の音楽性で国内外から注目を集めている。

時代にマッチした発信スタイルが素敵です

津市長
前葉 泰幸
MAEBA　YASUYUKI

市長対談の全編がご覧いただけます
MAYOR'S TV SHOW
◆ 津市ホームページ　津市 市長対談　検索
◆ ケーブルテレビ行政情報番組（123ch）